



～農の支え手と区内農業者とのマッチングの実現に向けて～ 練馬区農の学校「ねりま農サポーター」が誕生

とき	9月6日(日)午後2時～4時	ところ	練馬区農の学校(高松1-35)
----	----------------	-----	-----------------

6日、4月から実施してきた練馬区農の学校の「初級コース」の実習が最終日を迎えた。修了式では、区から一期生14人へ認定証が交付され、農の学校初の「ねりま農サポーター」が誕生した。

農の学校では、今後、支え手を必要とする農業者と「ねりま農サポーター」とのマッチング等を行う。

支え手を必要とする区内農業者は多く、お互いの条件が整い次第、農家の支え手として活動する予定だ。

「初級コース」を修了し、「ねりま農サポーター」となった女性は、「農の学校で学んだ知識、技術を活かして練馬の農業を支えていきたい」と意気込みを話してくれた。

初級コースを担当した荘光男講師は、「皆さんは、農のボランティアになるためにこのコースを受けていただいた。今後は、ここで学んだことを生かし、消費者の立場となっておいしい野菜作りのお手伝いをしてもらいたい」と思いを語った。

「ねりま農サポーター」は、農業者の支え手として活動するほか、区の農業イベントにも協力する予定となっている。



初級コース受講風景



修了式の様子

【練馬区農の学校事業とは】

農家の高齢化や後継者不足などに対応するため、農に関心を持つ区民の中から農業者を支える人材を育てるとともに、人材が活躍する場を提供する拠点として、平成27年3月に「練馬区農の学校」を開校した。

農の学校では、区内農業者が講師となり農家を支える人材を育成し、支え手を必要とする農業者とのマッチングを行う。所定のコースを修了した受講生は、「ねりま農サポーター」として認定され、農業者の支え手として活動するとともに、区内農業イベントの手伝いをしていく。

平成27年度は、「農とのふれあい・体験コース」、「初級コース」、「中級コース」の3コースを運営している。「初級コース」は、春夏期と秋冬期があり、春夏期は9月6日をもって、計10回の実習を終了し、「ねりま農サポーター」14人が誕生した。

【練馬区農の学校の役割】

- 1 農業者の支え手となる人材を育成する。
- 2 ねりま農サポーターと、支え手を必要とする農業者のマッチング等を行う。
- 3 区民に、農とふれあう場・学びの場を提供する。
- 4 農の魅力や大切さを区民に伝える情報発信を行う。
- 5 区民・農業者・支え手の交流機会を提供する。

【「ねりま農サポーターが」協力する予定の区の農業イベント】

- 5月(酪農体験) 6月(野菜ウォークラリー) 11月(農業祭、練馬大根収穫体験)
12月(練馬大根引っっこ抜き競技大会)